

**授業概要**

歴史的背景を踏まえ、古代から近代における日本の様々な思想が、どのようにして生まれ、発展していったのかを講義する。その際、仏教、儒教、キリスト教の思想についての解説を加え、これらの外来思想が、日本においていかに取り込まれ、変容したのかを、文献を通じて読み解いていく。日本人の考え方の基層にある価値観、死生観、人間観等を知り、日本思想の特色を理解することにより、現代社会における諸問題の原因、解決方法を探る手がかりとして欲しい。

**授業計画**

|      |                     |
|------|---------------------|
| 第1回  | ガイダンス               |
| 第2回  | 古代の世界観：『古事記』        |
| 第3回  | 仏教の思想               |
| 第4回  | 古代の仏教：最澄と空海         |
| 第5回  | 中世の仏教1：法然と親鸞        |
| 第6回  | 中世の仏教2：日蓮           |
| 第7回  | 中世の仏教3：道元           |
| 第8回  | 儒教の思想               |
| 第9回  | 近世の儒教：伊藤仁斎、荻生徂徠     |
| 第10回 | 近世の国学：本居宣長          |
| 第11回 | 近代の啓蒙主義：福沢諭吉        |
| 第12回 | キリスト教の思想            |
| 第13回 | 近代のキリスト教：新渡戸稲造・内村鑑三 |
| 第14回 | 近代の個人主義：夏目漱石        |
| 第15回 | 近代の倫理学：和辻哲郎         |
| 第16回 | 筆記試験                |

**到達目標**

仏教、儒教、キリストの思想について理解する。  
日本思想における外来思想の受容様態を理解する。  
思想を歴史的に捉える姿勢を身につける。

**履修上の注意**

10分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
予備知識は不要だが、意欲的に授業に参加することを期待する。

**予習復習**

予習：次回の授業で使用するプリントをあらかじめ読んでおく。  
復習：プリントやノートを再度読み直す。参考図書を読み、知識を深めるようにする。

**評価方法**

筆記試験（記述式）60%、授業の最後に配布するリアクションペーパーの記述内容40%として評価する。  
出席日数が3分の2に満たない場合は、受験資格を与えない。

**テキスト**

特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。